

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	多機能型事業所　このみ		
○保護者評価実施期間	令和7年12月25日 ～ 令和8年1月16日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26 (回答者数)	17
○従業者評価実施期間	令和8年1月17日 ～ 令和8年1月23日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13 (回答者数)	12
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月9日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされているなど 自己決定する力を育てるための支援を行っていること	普段の活動や間食など各々の状況や好みにより選択肢を増やし、提供している。	選択については経験のない事については選ぶことができないため、日頃より活動の幅を広げるための活動提供を意識して行っていく必要がある。 活動自体についてもこどもたちが「やってみたい」と感じられるようなものの情報提供を行い、意欲的に自己選択ができる環境を整えていく。
2	こどもの状況に応じて個別活動と集団活動を適宜組み合わせ て支援を行っている	こどもの状況を把握し、個々のこどもにあった活動の提供を行っている。また、季節を感じられるような活動内容を検討し、集団活動が苦手な利用者についても参加しやすい内容のプログラムを検討し提供した。	重度の障害を持つこどもたちについては集団での活動にマッチさせていく難しさがある。そのような状況の中でも気に入った感覚刺激が得られるなど、参加しやすい活動の提供を模索していく。
3	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	長期休業時には季節を感じられる活動の企画をし、活動計画を立てている。	放課後利用時には利用時間の短さからも活動プログラムにバリエーションを設けることが難しくなっている。様々な領域にアプローチできるような活動内容を盛り込んでいけるよう様々な活動を試行錯誤しつつ取り入れていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者同士、きょうだい同士、地域児童との交流の機会が 少ない	・保護者会など保護者同士が関わる機会がない。 ・地域のこどもたちとの交流を目的とした行事「このみの時間」を開催している。今年度は社会福祉協議会と連携し、地域より多くのこどもたちの参加があったが、障害児の参加が少なく交流する場としては不足感があった。	・座談会や交流の場の提供を検討していく。 ・地域児童と交流のできる内容を意識して企画を行う。 障害児の参加を広く呼びかけていく。
2	家族の対応力の向上を図るため研修や情報提供などが不足している	ペアレントトレーニングを行う上での専門性や知識の不足感がある。	ペアレントトレーニングについて、保護者への情報提供を行う上で現状では対応力の不足感が否めず、より高い専門性を身に付けるための研修への参加を行っていく。
3	避難訓練や安全計画についての周知が不十分である	避難訓練や安全計画の策定は行われており、連絡帳や新規契約時、懇談時などに周知しているものの保護者の認知度は低い状態にある。	避難訓練については施設内に留まらず、地域や保護者を巻き込んだものにしていけるよう工夫が必要である。周知については継続し行っていく。